

低身長

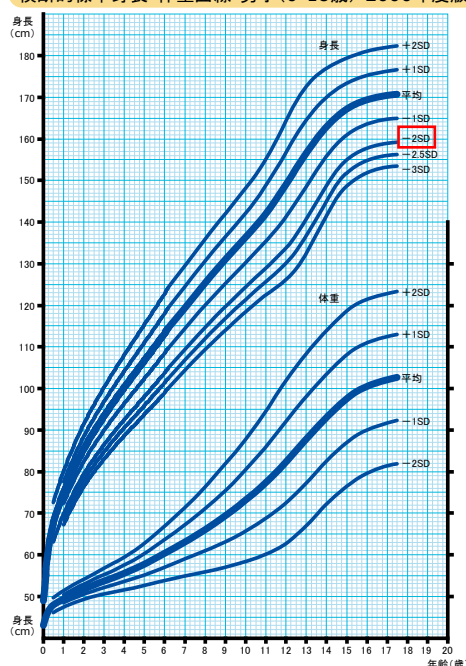
●低身長とは

- ・同年齢の同性の子に比べて背が低い(成長曲線における「-2SD」より低い)
- ・1年間の身長の伸びが4cm以下

●低身長の原因

- ホルモン分泌の異常 成長ホルモン分泌不全性低身長症
甲状腺機能低下症 など
- 先天異常 染色体異常、胎内感染 など
- 小さく生まれたことが関係しているもの SGA性低身長症 など
- 軟骨や骨の異常 軟骨無形成症、軟骨低形成症 など
- 基礎疾患によるもの 脳腫瘍、腎不全などの慢性疾患 など
- その他 低栄養、放射線治療後、ステロイド治療後 など
- 病的原因がないもの 体質性思春期遅発症、家族性低身長(特発性)
- 社会・精神的要因 愛情遮断性低身長

横断的標準身長・体重曲線 男子(0-18歳) 2000年度版



●低身長の検査

<問診・診察>

- ・成長記録から成長曲線を作成し、身長の程度と身長の伸びの状態を見ます
- ・出産時の状況(SGA、骨盤位分娩、仮死出生など)や既往歴、食生活、家族歴(家系内の身長の程度、二次性徴発来時期など)などや身長以外の問診をします
- ・身長・体重計測、二次性徴の有無と程度、身体的特徴を診察をします

<X線撮影>

- ・骨年齢を調べるために、骨のX線撮影を行います

<血液検査、尿検査>

- ・全身的な疾患や各種ホルモンが正常か調べます
- ・染色体異常(ターナー症候群など)が考えられる場合は染色体検査を行います

*** 受診の際必ず母子手帳と園・学校などでの今までの身長・体重の記録を持参してください ***

↓ 必要な場合はさらに詳しい検査に進みます。

<頭部画像診断>

MRIやCT検査を行います。

<成長ホルモン分泌刺激試験>

成長ホルモンを分泌する力がどれくらいあるか負荷試験という検査を数日入院して行います。

治療法

● 成長ホルモン補充療法

以上の検査により成長ホルモンの分泌が弱い成長ホルモン分泌不全性低身長の診断がたった場合や染色体異常、骨系統疾患が認められた場合は、適応になります。

- ・週6-7日寝る前に自宅でもしくは家族が太ももや腕、お腹、お尻などに成長ホルモンの注射製剤を注射します。
- ・一定の骨年齢や身長に達するまで続けます。
- ・投与量の調整と副作用チェックのため定期的な通院が必要です。
- ・費用助成の制度があります。



*** 3歳健診や保育園、学校等で低身長を指摘された場合などは一度ご相談ください**